

乾闥婆像 国宝

これは八部衆の一人、乾闥婆の像である。乾闥婆はもともとは天上でヒンドゥー教の神インドラに仕えていた楽人である。日本の仏教に取り入れられると、乾闥婆は帝釈天に使える家来としての役割を与えられるようになった。帝釈天は仏教の宇宙論における天上界の支配者である。

乾闥婆は、目を閉じ、獅子の皮を頭飾りにしている姿で表現されている。他の八部衆の像と同様に、この像も734年につくられた。麻の繊維に漆を塗り重ねた乾漆造で、内部は空洞になっている。